

各位

JIIA シンポジウムのご案内

日本国際問題研究所  
平成23年度 研究報告シンポジウム

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当研究所の諸活動にご協力、ご理解を賜りまして厚く御礼申し上げます。

当研究所は平成23年度において、「日米中関係の中長期的展望」(主査：山本吉宣 東京大学名誉教授、青山学院大学名誉教授、PHP 研究所研究顧問)、ならびに「新興国の台頭とグローバル・ガバナンスの将来」(主査：納家政嗣 青山学院大学教授) という二つの研究プロジェクトを実施してまいりました。この度、両研究プロジェクトのこれまでの研究成果を研究会委員の方々にご報告いただくとともに、ご参会の皆様から広くご意見を伺い、今後の研究への参考とさせていただきたく、日本国際問題研究所 平成23年度 研究報告シンポジウムを下記の通り開催する運びとなりました。

つきましては、ご多忙とは存じますが、何卒ご出席いただければ幸いに存じます。ご出席いただけます場合、お手数ですが別添のご出席回答用紙にご記入の上、ファックス、又はE-mailにて2月24日(金)までにご返送下さいませよう、よろしくお願い申し上げます。なお、お席に限りがございますので、出席希望者数が席数を越えました場合、出席をご遠慮いただく場合もございます。あらかじめご了承ください。

敬具

記

1. 日 時： 平成24年2月28日(火)

第一部「日米中関係の中長期的展望」 9:30~12:30

第二部「新興国の台頭とグローバル・ガバナンスの将来」 14:00~17:00

Date/Time: Tuesday, February 28, 2012.

[Part I] Medium- to Long-term Prospects for Japan-US-China Relations 9:30-12:30

[Part II] The Rise of Emerging Countries and the Future of Global Governance 14:00-17:00

2. 場 所： 東海大学校友会館「望星の間」(東京都千代田区霞ヶ関3-2-5 霞が関ビル35階)

Venue: "BOSEP" Room, The Tokai University Club (35<sup>th</sup> floor, Kasumigaseki Bldg.)

3. プログラム：

第一部 9:30 ~ 12:30 「日米中関係の中長期的展望」研究報告

- ・趣旨説明： 研究会主査・山本吉宣 東京大学名誉教授からの研究趣旨および概要の説明
- ・研究報告： 研究会委員による研究成果の追加説明 / 研究報告へのコメント
- ・自由討論： 会場との質疑応答

第二部 14:00 ~ 17:00 「新興国の台頭とグローバル・ガバナンスの将来」

- ・趣旨説明： 研究会主査・納家政嗣 青山学院大学教授からの研究趣旨および概要の説明
- ・研究報告： 研究会委員による研究成果の追加説明 / 研究報告へのコメント
- ・自由討論： 会場との質疑応答

※詳細は別紙。最新プログラムは当研究所ウェブサイト (<http://www.jiia.or.jp>) をご覧下さい。

4. 言 語： 日本語(日英同時通訳有)

Language: Japanese (Japanese-English simultaneous interpretation available)

(財) 日本国際問題研究所 千代田区霞が関3-8-1 虎の門三井ビル3階

研究員：角崎 信也 / 研究助手：高澤 洋志

TEL : 03-3503-7801 / FAX : 03-3503-7186

# 日本国際問題研究所 平成23年度 研究報告シンポジウム

第一部（午前） 「日米中関係の中長期的展望」

第二部（午後） 「新興国の台頭とグローバル・ガバナンスの将来」

日時： 2012年2月28日（火）

場所： 東海大学校友会館「望星の間」（東京都千代田区霞ヶ関3-2-5 霞が関ビル35階）

以下は2月15日現在のプログラムです。

最新版は弊所ウェブサイト (<http://www.jiia.or.jp/>) にて随時更新いたしますので、そちらをご参照ください。

## 第一部 「日米中関係の中長期的展望」 9:30~12:30

09:30-09:35 開会の挨拶

09:35-09:55 研究会主査より研究趣旨および成果報告書の概要説明

山本 吉宣（東京大学名誉教授、青山学院大学名誉教授、PHP研究所研究顧問）

09:55-10:25 研究会委員による研究報告

報告者： 梅本 哲也（静岡県立大学教授） 「中国の擡頭と米国の外交・安全保障政策」

大橋 英夫（専修大学教授） 「中国経済の台頭と日米中関係」

山影 進（東京大学教授） 「アジア太平洋の中の日米中：地域制度と日米中」

10:25-11:20 研究報告へのコメント / コメントへの返答

コメンテーター： 伊奈 久喜（日経新聞特別編集委員）

渡邊 昭夫（平和・安全保障研究所理事長、東京大学名誉教授、青山学院大学名誉教授）

他

11:20-12:20 自由討議

12:20-12:30 主査による総括

## 第二部 「新興国の台頭とグローバル・ガバナンスの将来」 14:00~17:00

14:00-14:05 開会の挨拶

14:05-14:25 研究会主査より研究趣旨および成果報告書の概要説明

納家 政嗣（青山学院大学教授）

14:25-14:55 研究会委員による報告

報告者： 東 大作（東京大学准教授） 「グローバルな『平和執行・平和構築活動』と『新興国』の台頭」

飯田 敬輔（東京大学教授） 「通商における新興国のグローバル・ガバナンス戦略

—WTO の DDA 交渉を中心に—」

太田 宏（早稲田大学教授） 「地球環境問題」(仮)

14:55-15:45 研究報告へのコメント / コメントへの返答

コメンテーター： 渡邊昭夫（平和・安全保障研究所理事長、東京大学名誉教授、青山学院大学名誉教授）

他

15:45-16:45 自由討議

16:45-17:55 主査による総括

16:55-17:00 閉会の挨拶

日本国際問題研究所 高澤行 (FAX : 03-3503-7186 e-mail: sympo120228@jia.or.jp)

\* 日本国際問題研究所 平成23年度 研究報告シンポジウム (2月28日 (火) 9:30~17:00) にご出席いただける方は2月24日 (金) までに、以下に所定の事項をご記入の上、ご出席予定の部にチェックを入れて、FAXにてご返送下さい。

\*\*\*\*\*

- 第一部「日米中関係の中長期的展望」(9:30~12:30)
- 第二部「新興国の台頭とグローバル・ガバナンスの将来」(14:00~17:00)

ご芳名(日) \_\_\_\_\_

Name (英) \_\_\_\_\_

ご所属(日) \_\_\_\_\_

Affiliation (英) \_\_\_\_\_

お役職(日) \_\_\_\_\_

Title (英) \_\_\_\_\_

ご連絡先 (TEL/FAX) \_\_\_\_\_

(e-mail address) \_\_\_\_\_ @ \_\_\_\_\_

【会場所在地】 〒100-6011 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 35 階  
東海大学校友会館「望星の間」 Tel : 03-3581-6041



# 各研究会の紹介

[http://www2.jiia.or.jp/resarch\\_intro.php](http://www2.jiia.or.jp/resarch_intro.php)

## 「日米中関係の中長期的展望」研究会

今日のアジア太平洋地域（広域アジア）の国際関係は、協調と競争の両側面を特徴とする、錯綜とした地域秩序のなかで展開している。一方では、自由貿易協定の締結等を通じて、経済的な相互依存関係が益々深化している。他方、中国の急速な台頭がアジア太平洋地域の力関係に変化を与え（パワー・トランジション）、軍事安全保障関係が大きく変化しつつある。そうした力関係の変化によって、日米同盟関係はその性格の変容を余儀なくされることも考えられる。現在の日本にとっての大きな課題は、中国の経済的・軍事的台頭及びそれに伴うパワー・トランジションにいかに対応し、またいかに主体的に地域秩序形成に取り組んでいくかを検討することである。

本研究会は、右の課題に対し、特に地域制度の役割に着目し、日本、アメリカ、中国、ASEAN の近年の地域制度への関与のあり方を検討したうえで、日本が今後いかに並存する地域制度を組み合わせていくべきかを考察し、具体的な政策提言を打ち出すことを目指すものである。

### 研究会メンバー

主査： 山本吉宣 東京大学名誉教授／PHP 総合研究所研究顧問  
委員： 梅本哲也 静岡県立大学教授  
大矢根聡 同志社大学教授  
大橋英夫 専修大学教授  
神谷万丈 防衛大学校教授  
菊池 努 青山学院大学教授／日本国際問題研究所客員研究員  
佐々木卓也 立教大学教授  
リザール・スクマ インドネシア戦略国際問題研究所所長  
高木誠一郎 日本国際問題研究所研究顧問  
中山俊宏 青山学院大学教授／日本国際問題研究所客員研究員  
山影 進 東京大学教授

## 「新興国の台頭とグローバル・ガバナンスの将来」研究会

近年、新興国は急速に経済成長を遂げ、政治的な発言力を高めている。1990年代後半以降、経済格差、貧困、環境、人口といったグローバルな問題に対し国際社会全体でいかに対処してゆくか（＝グローバル・ガバナンス）が議論されるようになったが、いまや新興国抜きにこうした問題を解決することが難しいことは誰の目にも明らかである。しかしながら、新興国の多くは自国の利益を優先する傾向が強く、先進国と協力してグローバルな課題の解決に取り組もうとしているとは言い難い。BRICs に代表されるような新興国の台頭は既存の国際秩序だけでなくグローバル・ガバナンスのあり方そのものにも大きな影響を及ぼしており、その詳細な分析・研究が求められている。

本研究会は、右の課題に対し、新興国の台頭が国際秩序に及ぼす影響を理論的に検討するだけでなく、環境問題等のグローバルな問題における新興国の政策動向を精査し、問題解決のために採り得る協力の形を実践面からも検討するものである。そして、新興国の台頭に対し日本がいかに対応すべきかを考える素材を提供したうえで、日本の外交政策への提言を打ち出すことを目指すものである。

### 研究会メンバー

主査： 納家政嗣 青山学院大学教授  
委員： 秋山信将 一橋大学准教授／日本国際問題研究所客員研究員  
飯田敬輔 東京大学教授  
太田 宏 早稲田大学教授  
大橋英夫 専修大学教授  
菊池 努 青山学院大学教授／日本国際問題研究所客員研究員  
東 大作 東京大学准教授  
山田哲也 南山大学教授  
山本吉宣 東京大学名誉教授／PHP 総合研究所研究顧問  
和田洋典 青山学院大学助教